

公共交通及びコミュニティ交通に 関する勉強会



厚木市 都市みらい部 都市計画課

1 厚木市の現況と課題

◆ コミュニティ交通の導入箇所(公共交通不便地域)

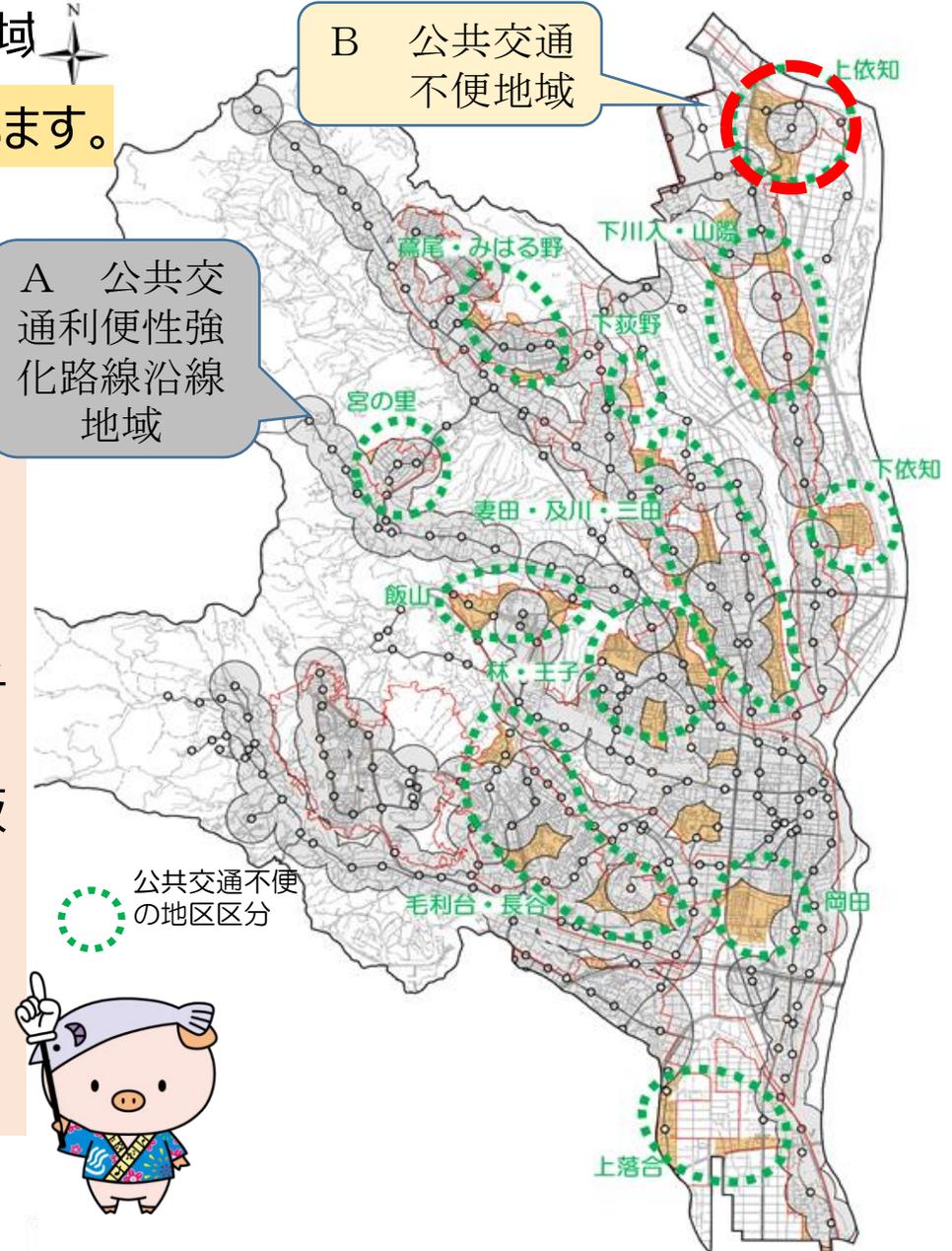
➤ 市内各地に公共交通不便地域が点在しています。

➤ 公共交通不便地域とは

コンパクト・プラス・ネットワーク推進計画における居住誘導区域内で1日30本以上のバス停300m圏外及び鉄道駅800m圏外

➤ 市内の公共交通不便地域

- 依知地区 (①上依知、②下川入・山際等、③下依知)
- 睦合地区 (④妻田・及川・三田、⑤林・王子等)
- 荻野地区 (⑥鳶尾・みはる野等、⑦下荻野)
- 小鮎地区 (⑧宮の里、⑨飯山)
- 南毛利地区 (⑩毛利台・長谷等)
- 相川地区 (⑪岡田、⑫上落合等)

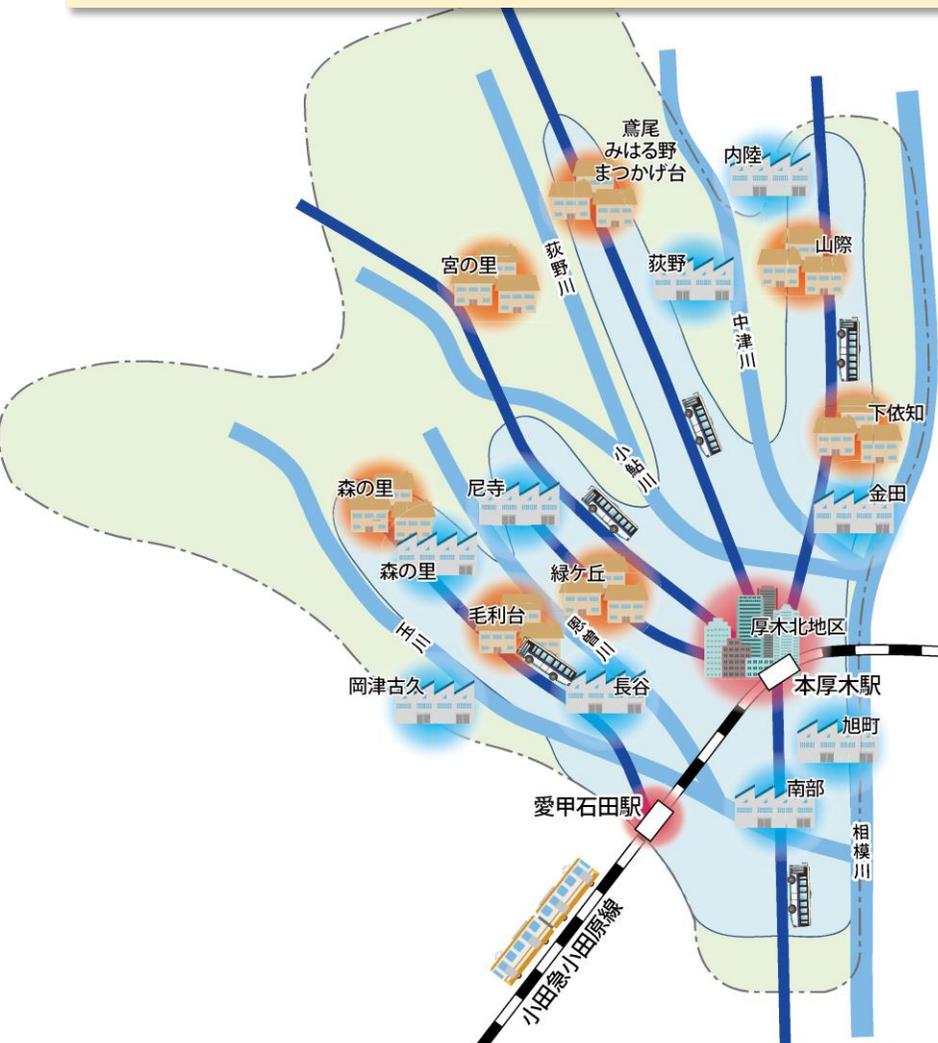


2 厚木市が目指すコンパクト・プラス・ネットワーク

2

◆ 厚木市が目指すコンパクト・プラス・ネットワーク型の都市づくりとは・・・

居住と生活サービス施設をバス路線沿線に緩やかに誘導し、居住と生活サービス施設の距離を短縮することにより、市民の生活利便性を高めること。



バス路線沿線に住宅地や
産業地が形成

公共交通（バス路線）
徒歩圏カバー率85.1%

スーパー・ドラッグストア
徒歩圏カバー率79.4%

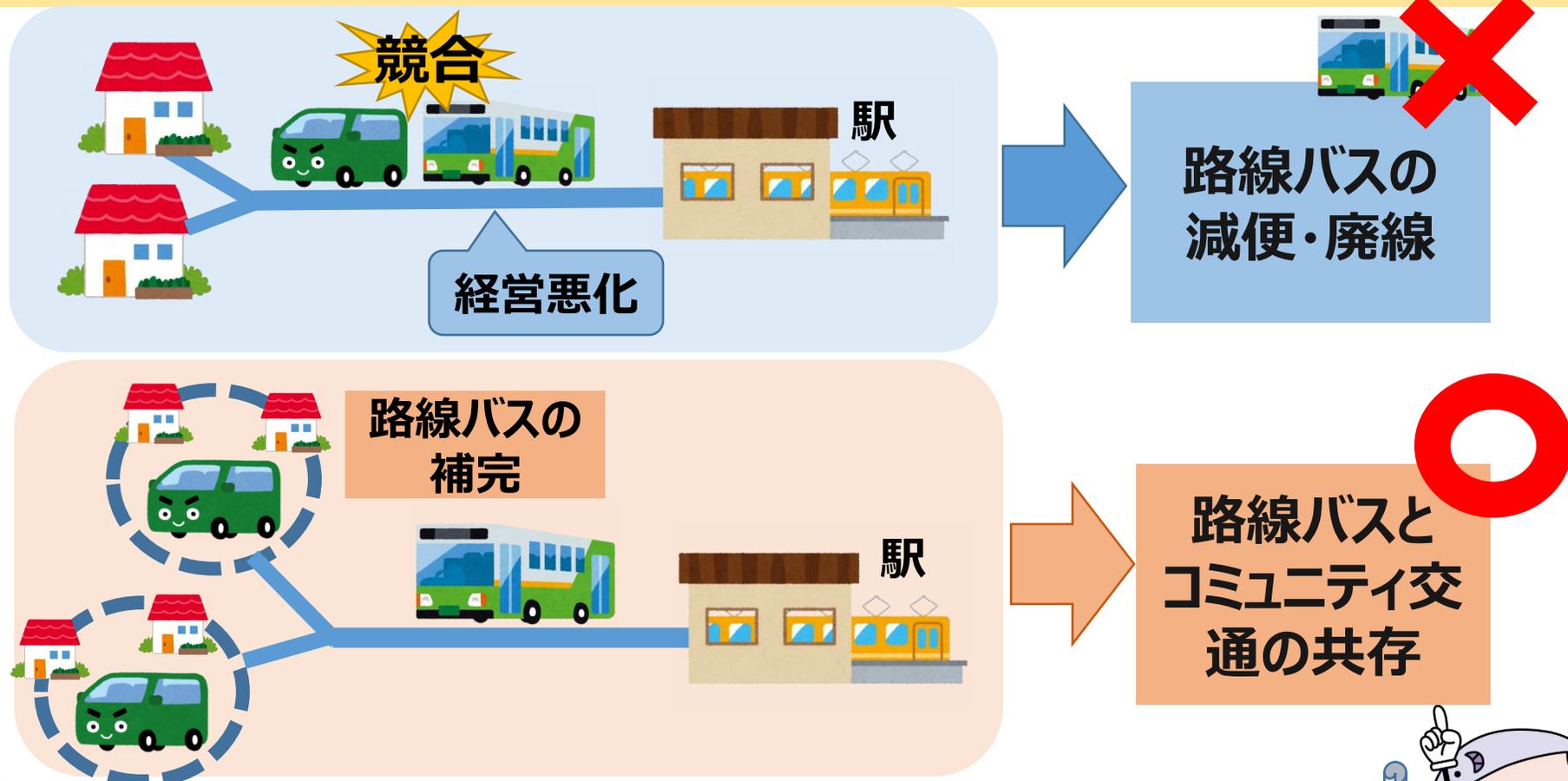
厚木市が進める
コンパクト・プラス・ネットワーク型の都市づくり

都市を小さくするのではなく、現在の市街地の規模を維持し、住まいや移動手段の質の向上を進める。

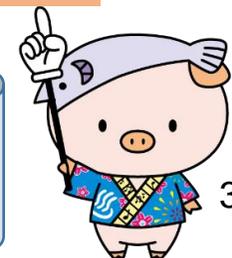
3 コミュニティ交通と既存の公共交通

◆ 本市が考えるコミュニティ交通とは

- 交通空白地域・不便地域の解消等を図るために市町村等が主体的に計画する、路線バスを補完する乗り合いバスなどのこと。



コミュニティ交通は“**無くてはならない**”ものであれば
導入を検討



【参考】厚木市のコミュニティ交通

- 公共交通不便地域への対策として、**地域コミュニティ交通『ココモ』『森の里ぐるっと』**といった地域特性に応じたコミュニティ交通を導入しています。

交通名	ココモ
地区	鳶尾、まつかげ台・みはる野地域
実施主体	厚木市、まつかげ台・みはる野・鳶尾地区コミュニティ交通運営協議会
車両	10人乗りジャンボタクシー（乗客定員8人）
運行日	・鳶尾ルート（月、金曜日）の1日4便運行 ・まつかげ台・みはる野ルート（火、木曜日）の1日4便運行
運賃	1乗車100円 （小学生50円、未就学児無料）
その他	地元運営協議会メンバーが必ず1名以上乗車し、地域主体の運行をしている。
車両写真	

【参考】厚木市のコミュニティ交通

- いずれも地域主体の運行となっており、地域に定着した移動手段となっている。また、地域の足としてのみならず、運行を通じた地域コミュニティが形成されている。

交通名	森の里ぐるっと
地区	森の里地域
実施主体	森の里ぐるっと運営協議会 一般社団法人 厚木ぐるっと
車両	10人乗りジャンボタクシー（乗客定員8人）
運行日	週3日（月、水、金曜日）の1日8便
運賃	無料
その他	自主財源による運営が厳しい状況となったため、令和6年度から市が補助金を交付し運行を継続している。
車両写真	

3 コミュニティ交通と既存の公共交通

①コミュニティ交通は自家用車にはかきません。

- 他市の事例等では、要望に基づき、コミュニティ交通を走らせてみたら、**空気を運ぶもの**になってしまった。
- コミュニティ交通が“**必要**”ではなく、実際は運転できなくなる時の保険として、“**ほしい**”という意見が多数であり、導入には時期尚早だったということも。



◆ コミュニティ交通のメリット・デメリット

交通手段	メリット	デメリット
コミュニティ交通	<ul style="list-style-type: none">• 運賃がやや安価• 地域特性や地域ニーズに合わせた運行が可能	<ul style="list-style-type: none">• 地域で自主運営組織を立ち上げ、運行する必要がある• 導入したら利用して継続させる責務が生じる• 市の財政負担がある• 利用者以外は恩恵を受けられない• 路線バス等の利用者が更に減ると、路線バス等が減便・廃線する可能性がある

3 コミュニティ交通と既存の公共交通

②コミュニティ交通が、地域の移動問題解決の最適解とは限りません。

- コミュニティ交通導入がゴールではなく、導入した後の維持が課題です（利用者増加に向けた取り組みや地域運営体制の維持等）。
- 移動に困っている人は誰なのか、何に困っているのか、解決策は何が一番最適なのか等、移動に対する課題を整理する必要があります。



3 コミュニティ交通と既存の公共交通

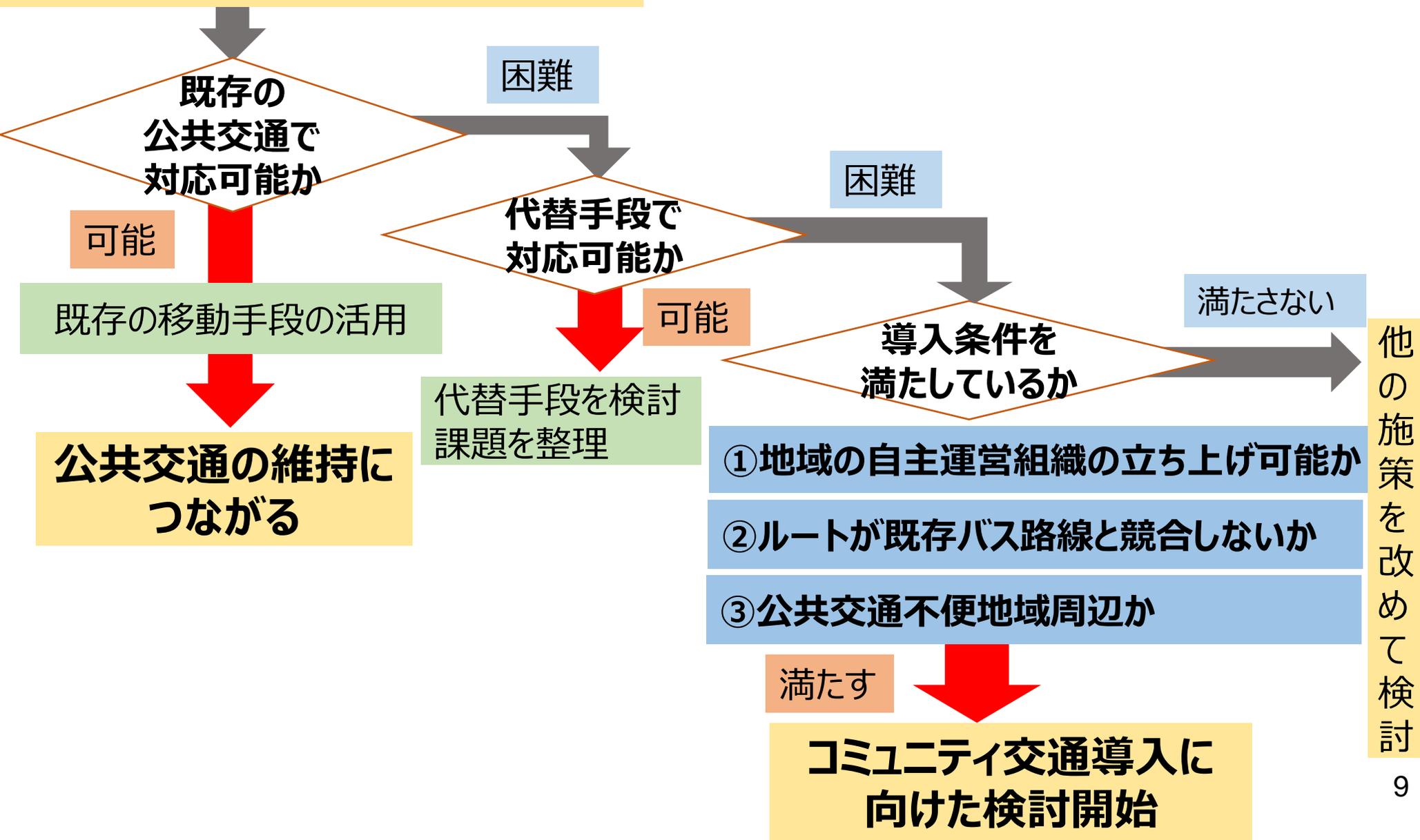
③ 現公共交通環境に生活スタイルを合わせることも考えてみてください。

- 安易にコミュニティ交通へシフトすると、既存の公共交通の経営悪化につながり、最悪の場合、**地域からバス路線が撤退する可能性があります。**
- 地域の将来を考えると、公共交通の維持は不可欠です。**既存の公共交通の利用を第一に考えていきたいところ**です。



3 コミュニティ交通と既存の公共交通

地域の移動に関する課題を整理



4 地域の状況把握と課題整理

- ◆ 地域の移動に関する課題を整理し、その課題の解決策について、考えてみましょう。

誰が 65歳以上の高齢者、通勤通学者、運転免許が無い人等

いつ 朝、昼、夕、平日、休日、路線バス運行がない時間帯 等

どこに 買い物、病院、公民館、駅 等

何に 重い荷物を運べない、通院時間の路線バスがない 等

など

6 今後の流れ

- 市としては、地域の移動に関する課題について、地域住民の方と一緒に整理させていただき、最適な移動手段について検討していきたいと考えています。
- たとえ、今回の検討でコミュニティ交通導入まで具体化されない場合であっても、**これで終わりではなく、継続的にコミュニティ交通導入の可能性について検討していく考え**です。



- 市としては、**地域住民の生活の足について、最適な方法を継続的に検討していきたい**と考えております。
- 地域住民の方々におきまして、ぜひ自分事としてとらえていただき、日常生活の移動について改めて考えてみる機会にさせていただけたら幸いです。